

今回のテーマ

企業年金について その4

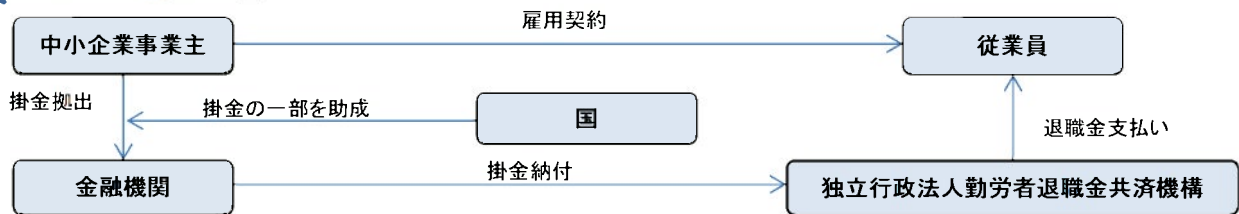
前々回から従業員の退職金制度として数多くの企業に採用されている企業年金について複数回に分けて解説を試みっていますが、今回取り上げるのは、中小企業退職金共済制度(以下、中退共と記する)です。

- 中小企業退職金共済法に基づいて運営される。
- 設立は昭和34年。平成28年5月時点の加入企業は361,729事業所、加入者数3,342,210人、総資産約4.6兆円。
- 1社単独では退職金制度をもつことが困難な中小企業が、事業主の相互共済の仕組みと国の助成を受け、退職金の支払いができるようにすることを目的に作られた。

★ 中退共の加入対象

一般業種	常用従業員数300名以下または資本金・出資金3億円以下
卸売業	常用従業員数100名以下または資本金・出資金1億円以下
サービス業	常用従業員数100名以下または資本金・出資金5千万円以下
小売業	常用従業員数50名以下または資本金・出資金5千万円以下

★ 中退共の仕組み図



★ 中退共の特徴

- 国の助成**
  - 掛金は独立行政法人勤労者退職金共済機構が管理運営。新規加入や増額時に国庫から助成を受けられる。
- 掛金は損金算入**
  - 掛金は全額損金算入できるが、退職金の支払いは従業員に同機構から直接支払いとなる。
- ポータビリティ**
  - 従業員が転職する際、転職前の企業も転職後の企業も中退共を導入している場合は、一定要件のもとに加入期間を通算して加入できる。

豆知識シリーズ: 「現代のがん治療」

がんの治療は大きく分けて「手術療法」「放射線療法」「化学療法(抗がん剤等)」の3つ。近年は身体を切らずにがんを治療する「放射線療法」が注目を集めています。これはエックス線、電子線などをがん組織に照射することでがん組織を死滅させたり小さくする治療を指します。特に最近、コンピュータ技術を組み合わせることで、がん組織に効率よく放射線を照射することのできる「IMRT(強度変調放射線治療)」や「ガンマナイフ(定位放射線治療)」などの登場で、放射線治療の効果を高めると同時に、合併症や副作用を減らすことができるといわれています。

治療を受けるとき

前立腺がんの診断から治療の流れ(一例)を見てみましょう



本年7月15日に国立がんセンターから発表された分析によると、2016年のがん罹患数をはじめて100万例を超え、がん死亡数予測は37万4千人と15年比約3千人の増加との予測。県内では、全国平均からみて胃がんの罹患が多い(秋田1位、新潟2位)のだそうです。食べ物や気候?の影響がどうか分かりませんが興味深いデータではあります。